

議員本位の政策立案と 議会活動の可能性

早稲田大学政治経済学部政治学科4年 | 櫻井遼太 | 2023年3月7日

〔概要〕

「政治が一部の人に限られたものになっている」という認識が、有権者と政治家双方にあるのではないか。有権者からの委任を受けた政治家が、有権者の代理として、政策決定を代表して行っていく「代議制民主主義」が危機に瀕している。その背景は、有権者と政治家双方が互いの姿を数値指標や選挙結果といった「結果」でしかほとんど見えておらず、どのような背景や議論があったのかという「過程」が見えていないことにあると考えられる。有権者は、「誰がどうやって、政策を決めているのか」をイメージしづらく、政治家の側も「政策決定に介入する声の大きいアクター以外の有権者像」をイメージしづらい。

本稿では、政策決定を行う最小かつ重要なアクターである政治家が、実際にどのような「意思」や「制度による制約」に基づいて政策決定を行っているのか、新旧国会議員へのインタビュー等を通じて迫り、「政治アクター」の姿と「政策決定プロセス」の実際を可視化する。そうすることで、有権者と政治家双方が代議制民主主義という関係性を、できるだけリアルに近い形でイメージできる手掛かりを示す。そして、両者が相互に信頼関係を築きながら、社会を設計していくための提言を、「情報」と「コミュニケーション」という現代社会のカギを用いながら、論にまとめていく。